



### 三元短筒捕 (Sangen Pistol dori)

何回試みても、先生に対し引き金を引こうと指を動かす瞬間、すでに先生が銃口から消えているという感じだった。ところが先輩に対しては簡単に引き金を引けた。何かが本質的に違った。

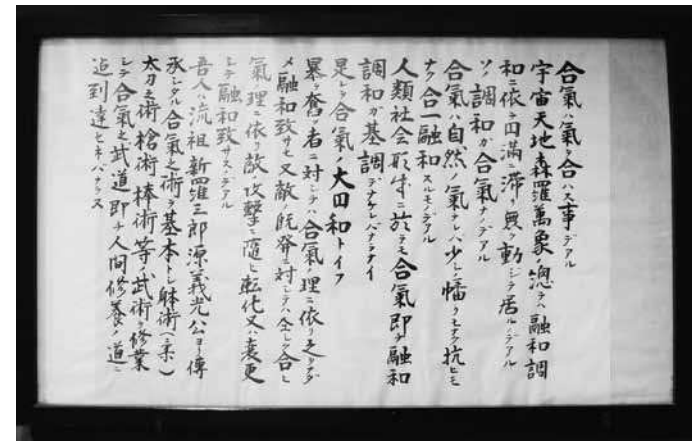


### 首締アゴ当て (Kubijime agoate)

私が両手で前から首を締めていくのを軽く合気で崩してしまおう。アゴに手が当たる前に合気で崩され、私の体全体の力がすっかり抜けてしまっている。

(昭和 63 年 4 月 15 日 文藝春秋の今井仁史氏撮影)

第二章 数学の研究と合気修得に明け暮れた日々



佐川道場に掲げられている道場訓「合気之武道即ち人間修養の道」これは佐川先生の直筆である。

Words written by Sagawa Sensei on display in the Sagawa Dojo

合気は氣を合はす事である。  
 宇宙天地森羅万象のすべては融和調和によりて円満に滞りなく動じているのである。その調和が合気なのである。  
 合気は自然の氣なれば少しの蟻りもなく抗ひもなく合一融和するものである。  
 人類社会形成においても合気即ち融和調和が基調でなければならぬ。  
 これを合気の大円和という。  
 暴を奮う者に対しては合気の理に依りこれをなだめ融和致させ、また敵の既発に対しては全しく合ひ氣の理により敵の攻撃に随い転化または変更して融和致さすのである。  
 吾人は流祖新羅三郎源義光公より傳承したる合気之術を基本と躰術(柔)太刀之術槍術棒術等の武術を修業して合気之武道即ち人間修養の道に迄到達せねばならぬ。



昭和 35 年 武蔵小山の自宅にて私と左端が家族と

## 本物志向を徹底的に仕込まれた幼年時代

私は武術でも数学でも良い師にめぐまれましたが、それは父親の影響があるのです。とにかく非常に心に残ったことがあります。

小学校一年の頃に木琴を習いたいと父親に言ったところ、当時まだテレビがない時代に、ラジオで大活躍していた朝吹英一という人のところにいきなり連れて行かれたのです。大人ばかりが列をつくって並んで待ち、一人三十分くらいのレッスンを受けているのですが、木琴を叩く二本の棒が見えないほど速いスピードで、汗びっしょりかきながら弾いている。木琴のイメージがぜんぜん違った。子供心にたまげてしまいました、けたが違う。でも、その時は、「あんたはまだ早い」と、習うのを断られてしまいました。

その後、ほかの木琴の先生のところに行いたのですが、先生のレベルがぜんぜん違う。本物を先に見てしまったので、やる気がしなくなり、やめてしまいました。

その時に、「良い先生を何をおいても選はないといけないのだ」ということを植え付けられた感じでした。うちの父にはそういうところがありました。

これも私が幼稚園か小学校一年生くらいの時ですが、蝶々の図鑑を買ってくれと言いましたら、子供の図鑑をイメージしていたところ、当で一番組段の高い、保育社の『日本蝶類図鑑』という立派な本を買ってくれたのです。感動するわけです、本格的で子供用じゃないですから。

嬉しくて何回も繰り返しその本を見ていたので、小学校二年の頃には二〇〇種類の蝶を覚えてしまい、蝶の写真を隠してもその頁にある蝶の名前を全部言えたほど、蝶まじがいのようになってしまいました。小学校の友達に昆虫の先生になると思っていたくらいです。

今から思うと、やはり小さい時から本物に会わせるということは大切なことです。わかってもわからなくても本物のもつ波動というのにはぜんぜん違う、理解を超えて感動するわけです。

ほかに子供の頃の思い出といえば、父親が私をお風呂に入れながら、武術の達人の話をよくしてくれたことです。

「すごいんだぞお、達人は。敵が斬りかかってくるのをピシッピシッとやるんだ」

「かつこいいな！」

そんな武術の達人に会ってみたいと憧れをもちました。今考えると、武術に関しては、それが原点になっている気がします。

そのような感じで、なんでも一流のところへ行くのだという考えでしたから、小学校六年ぐらいになると、『世界蝶類図鑑』（保育社）の著者で、国立科学博物館の故黒沢良彦先生のところへ直接訪ねて行ったの



中学3年 マラソン大会にて

です。それで、「君は裏から自由に出入りしている」とお墨付きをもらって、しょっちゅう先生のところに行っては、奥にある蝶を見せてもらったり説明をもらったりしました。小学生を相手によくそんなことをやってくれたなあと、今になって思います。

中学校に入る頃には、黒沢先生に蛾の研究を薦められたのです。蝶をやる奴は世界中どこにもいるが、蛾は気持悪いからやる人があまりいないし、蛾は蝶の十倍以上いる、だから新種を発見できるかもしれないと。それで、日本蛾類学会の前身で蛾類同士会というところへ連れて行かれて紹介してもらったのです。中学、高校の時は蛾の研究を本格的にやりました。

しかし、ある夜、剣道部の後輩とのお母さんを連れて御岳へ蛾を採りに行って、蛾に注射をしようとした瞬間、そのお母さんに「あっ、かわいそう！」と言われ、注射ができなくなってしまうました。その後は図鑑だけで研究をやっていたのですが、やはり本物を採らないと限度がありますから、蛾の研究は止まってしまいました。

### 心の奥深くで何かが揺れた

私の父は、東大の法学部を出て普通の会社員になったのです。本当は文学者になりたかったようです。ちなみに、祖父は医者で、銀座で耳鼻科を開業していました。

父と伯父が私立武蔵中学という、中学と高校一貫性の学校を出ていたので、私も同じ中学に進むことになったのですが、その進学も決してスムーズにいったわけではありませんでした。進学

教室の試験を受けては落ち、親はため息ばかりついていました。それでもなんとか四、五回目が一番下のクラスに補欠で入ったわけです。そして運がいいと言うか、九、八倍の競争率だったので、武蔵中学に入ることができました。伯父が剣道部出身で、強く入部を勧めたので剣道部に入りました。

中学三年生の時の同級生に佐原文東君（現清心館道場長）がいて、ある時、彼が教室で合気道の本部道場の会員証をみんなに見せて自慢していたのです。当時、道どうと言えば、剣道と柔道しかないと思っていた時代でしたから、合気道など誰も知らず、

「なんだ、それ」

「いや、すごいじいさんがいるんだ、達人なんだ」

“達人”と聞けば、私はピン！ときてしまいますから……。

その後彼に連れられて合気会本部道場に行ったわけです。昔の本部道場です。植芝盛平翁（合気道創始者 1883～1969）がいらして、なにか演武が行なわれたあとに、みんなが車座になってくつろぎながら喋っていました。

そのあと、その日に入門した人たち（三〇

著者の稽古日記より

—— 本 当 の 鍛 練 と は

他流の人は試さないから、自分がどの程度か、わからないのではないだろうか？ 私はいくら自分で鍛錬したって、どのくらい効くか不安だからいろいろ試してみたのだ。かりに効くにしても効き方が悪いとか、力をぐっと入れられるとなかなかうまくいかないとかね。特訓なんていつてやっているが、ああいうのは二三年集中してやったところで何にもならない。鍛錬は何十年と休まずやり続けるものなのだ。私も身体が上三角形で腰が細かったのを鍛錬で変えていったのだ。鍛錬を続けていると身体が動くようになってくる。生まれたまんまの身体で本当に腰の強い人や自由に動ける人などいるわけがない。

人間は生きている限り変わることができるのです。生きているということは、そういうことでしよう。私の年になってまで鍛え続けている者はいないだろう。力は無くなっても、鍛え続けることによって何かが出てくる。

(胸をつかみにいった瞬間に飛ばされてしまって、びっくりしていると) こんな事ができた人

は今までいないよ。私が何十年と身体を鍛え続けてきて身体がきまってきた初めてできるのだ。瞬間爆発したように飛ばしてしまうのは身体がしっかりしてこないとできない。私は毎日何十年と鍛え続けたからね。

なんとなくやっているうちにうまくなるというものではない。やはり集中しなければとてもできるものではないのだ。そして私が教えなかつたらとてもポイントもわからない。

この十年間ですっかり腰が強くなり変わった。家内が亡くなってからすぐ鍛えた。やはり運動を続けているから元気でいられるし、やる気もおきるんだね。運動を続けているということは、普通に思っている以上に大事なことなのだね。人間は生きている限り運動を続けなければいけないのだ。

(昭和六三年十一月、佐川先生八六歳)

二三年前に新しい鍛え方を思いついて、それからどんどん変わってきた。それに今でも毎日腕立て伏せを百五十回はやっているよ。

(平成三年、佐川先生八八歳)

## Devoting my time exclusively to mathematical research and Aiki practice

---

### Childhood training to recognize what is real from what is not

Fortunately, I had good teachers, not only in mathematics, but also in bujutsu, and my father was partly responsible for this. In any event, there was an incident that made a lasting impression on me. When I was in the first grade of elementary school, I told my father I wanted to learn to play the xylophone. Then, my father, without warning, took me to meet Mr. Eiichi Asabuki who was a famous xylophone player who often played on the radio. At that time, most homes did not have televisions.

His students were all adults and were waiting their turn to receive 30-minute lessons. The students played with such speed that I could not even see the two mallets hit the xylophone well.

My image of the xylophone was completely different. I was so surprised even though I was a child. However, at that time, I was rejected because I was too young to learn.

After that, I went to a different teacher to learn the xylophone, but the level of the teacher was completely different. Since I met a true teacher first, I lost my enthusiasm for learning the xylophone and stopped taking lessons. On that occasion, I learned the importance of choosing a good teacher in any field. This was my father's way of thinking.

The following episode occurred around the time when I was in kindergarten or the first grade. I asked my father to buy me an illustrated children's book on butterflies. He bought me the most expensive book on the subject published by Hoikusha titled "An Illustrated Book of Japanese Butterflies." I was really impressed by the fact that it was not a book for children.

I was so glad that I looked through the book many times. Finally,

when I was in the second grade, I became a fanatic about the subject and remembered 200 species of butterflies and could even recite everything about them without looking at their photos. My school friends probably thought that I would become an entomologist.

I now believe it is important to meet extraordinary people and have rich experiences during one's childhood. The nature of such individuals is completely different whether or not you really understand it. Experiencing such people leaves a deep impression beyond understanding.

Another childhood memory I have is of my father often telling me stories of martial arts' masters when he helped me with my bath. My father would say, "That martial arts expert is really amazing! He's cutting down the enemy as soon as he comes to attack!" I would remark how admirable he was. I yearned to meet such a martial art expert. If I think of it now, I believe that is the origin of my interest in martial arts.

Since I was of the opinion that you should seek out the highest-level person in any field, as a 6th grade elementary student I visited the late Yoshihiko Kurosawa Sensei of the National Science Museum who was the author of "Butterflies of the World" published by Hoikusha.

He gave me special permission to freely enter the museum from the rear entrance and I often visited him. He showed me many specimens of butterflies kept in the back area and explained all about them. Looking back now, I think it was extremely kind of him to have done such a thing for an elementary school student.

When I entered junior high school, Kurosawa Sensei recommended that I start researching moths. He told me there were many people doing research on butterflies because they are more beautiful, but only a few studied moths. He mentioned that there are ten times the number of species of moths and I might have a chance of discovering a new one.

Kurosawa Sensei took me to the Moth Association, the predecessor to the Japan Moth Society, and introduced me to the members. I engaged in serious research on moths while a junior and senior high school student.

However, one night, I went to collect moths on Mt. Mitake together with